

中央アルプス駒ヶ根高原での砂防フィールドミュージアムの取り組み (自然と人がおりなす青空博物館)

国土交通省天竜川上流河川事務所 草野慎一、中島一郎、福本晃久、○寶久、中原誠志[※]
日本工営(株) 飯沼達夫、大島佳代

1. はじめに

駒ヶ根高原を縦断する一級河川太田切川はひとたび大水が出ると大変な荒れ川となり「人取り川」として恐れられていた。しかし、昭和37年に直轄砂防事業に着手して以来、施設整備も進み高原周辺は、多くの観光客が訪れる観光拠点となり、今後も一層の整備促進を目指している。反面、地域住民の土砂災害などへの危機意識が薄らいでいることも現実の問題として危惧される。

このため、地域住民、小・中学生、観光客等が、この地域への関心や愛着を深め、地域活性化の機会をつくりだすとともに、地域の安全・安心のための防災力を向上させる必要がある。その取り組みとして、当該地域にある自然遺産、文化遺産、砂防設備等により整備が進んだ土地利用、景観ビューポイントなどの地域資源全体を屋外博物館(フィールドミュージアム)と位置づけ、地域社会における砂防との関わりについて楽しく体験学習できる場を提供することとした。(図1)

平成20年3月から駒ヶ根市、宮田村、学識経験者、地元観光協会、天竜川上流河川事務所で構成する「駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム構想協議会」(以下、構想協議会という。)を立ち上げ、そこで議論・決定された全体構想、環境整備方針等に基づき具体化を図っている。平成20年度はコースの設定、ガイドマップの作成を行った¹⁾本稿は、構想協議会設立のあと、開館前後の運用開始に向けての取り組み、地域と連携したイベントの概要について報告を行うものである。



図1 基本理念

2. 運用開始に向けての取り組み

平成21年7月からの運用開始に向けて、以下の整備を行った。

①環境整備

大型案内看板・コースの指示標・各資源の説明用看板の作成、ガイドマップ等の紹介ツールの作成、ホームページの立ち上げを行った。

②シナリオの作成

想定する対象者毎に「何を学ぶか」、どのような「手法」で行うかを決定した。(表1)

③地域団体(サポート団体)との連携

地域に根差し、継続したものとしていくために、地域の団体との連携を図った。(図2)

④ガイドの運営

ガイドマップを片手に取り、散策することを基本としているが、ガイドによるツアーの運営も実施している。事前に募集したガイド候補者の方に養成勉強会を開催した。(写真1) 地元観光協会を窓口として、一般市民等からのガイドツアーの予約受付を行い、随時開催することとした。

表1 具体的シナリオ

対象	観光客	
	何を学ぶか: 駒ヶ根高原の自然、土地の成り立ち、防災 手法: 観光資源に土地の成り立ちを付加したガイドツアー	
地元住民	子ども (駒ヶ根市・宮田村 小・中学生)	何を学ぶか: 土砂災害の起こるしくみ、防災 手法: 授業としての現地見学会
	一般 (中高年世代・ 子育て世代)	何を学ぶか: 土地の成り立ち、防災 手法: 公民館活動での体験ツアー スタンプラリー
	地域リーダー (区長、水防団)	何を学ぶか: 地域リーダーとしての防災技術や災害時の対応等の防災知識 手法: 自主防災組織や防災関連団体での勉強会、講習会

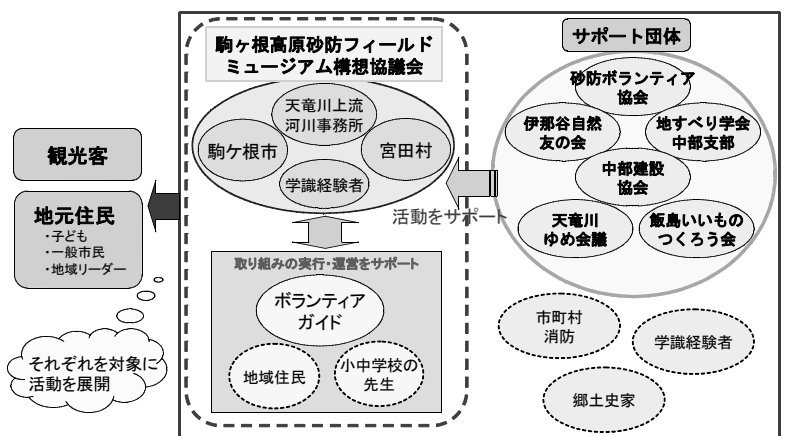


図2 地域との連携イメージ

※元 天竜川上流河川事務所 現 駒ヶ根市

3. 地域と連携した各種イベント

地域住民が砂防フィールドミュージアムに参画し、地域に広げていただけるよう以下の取り組みを行った。

①開館式及びオープニングガイドツアー

平成21年7月17日(金)に構想協議会の主催で砂防フィールドミュージアムの開館式を行った。(写真2) 今後、砂防フィールドミュージアムを地域に紹介していただけるよう、地元市議会議員を始め、駒ヶ根市、宮田村の各地区の代表者や、教育及び観光関係者約60名の来賓をお招きした。その後、ボランティアガイドによるオープニングガイドツアーを行った。

②一般市民を対象としたガイドツアー

防災意識の高揚と駒ヶ根高原の魅力を再発見してもらうことをテーマに、一般住民を対象にしたガイドツアーを11月に実施した。公募により参加者をつどい、観光客・地元住民合わせて48名が参加した。秋晴れの空の下、ガイドの説明に熱心に耳を傾けていた。(写真3)

③小・中学生を対象とした体験学習会

砂防フィールドミュージアムを活用した防災教育を行う目的で、地元市村の小・中学校を対象に体験学習会を開催し、3校65名が参加した。(写真4)

④アンケート結果

以上の参加者を対象に今後の改善のためのアンケート調査を行った。主な感想・意見を以下に紹介する。(写真3)

《オープニングガイドツアー》

- ・地元でも知らないことが沢山あり、参加していくつか勉強することができた。
- ・都会の知り合いに紹介してやろうと思った。
- ・お客(参加者)が何を欲しているのか、それに応じた説明を期待する。
- ・防災(ハード面)をもう少し説明するとよい。

《一般市民を対象としたガイドツアー》

- ・こんな機会を作っていただきありがたかった。又、知り合いを募って参加したい。
- ・素晴らしいツアーなので、観光客の方がもっと参加できるとよい。
- ・砂防の重要性、特に歴史と砂防のつながりがわかる見学ができればよりよい。
- ・家族連れには、興味を引く工夫や仕組みが必要である。

《小・中学生の体験学習会》

- ・切石や大沼湖などいろいろな土砂災害に関する箇所に行けて楽しかった。
- ・災害がおきたらどうすればよいか、自助・公助・共助などの大切さがわかった。
- ・言葉が色々あって、意味のわからないところがあった。

参加者は概ね好意的な感想であったが、今後の改善に反映すべき貴重な指摘も得られた。



写真1 ガイド勉強会の様子



写真2 開館式でのテープカット



写真3 ガイドツアーの様子



写真4 小学生の体験学習会

4. 結 び

砂防事業により土地利用が進んだ駒ヶ根高原で、巨石の謎解きなどを通じて、土地の成り立ちや歴史を知り、この地の安全を支えている「砂防」を理解することで、地域の防災意識の向上を図る。さらに派生して、地域のにぎわいが醸成されていくことが砂防フィールドミュージアムの求めるものともいえる。オープンしてまだ10ヶ月であるが、継続して実施する中で、今後の課題も見えてきた。構想協議会顧問である中村三郎防衛大学校名誉教授、及び構想協議会の実行組織である検討部会長の北澤秋司信州大学名誉教授のさらなるご指導を頂きながら、地域との連携を密にはかり、一つ一つ、の課題の克服に取り組んでいく予定である。

参考文献

1) 伊藤仁志ほか；土砂災害関連情報認知度向上に向けた駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアムの取り組み；平成21年度砂防学会研究発表会概要集pp. 554-555